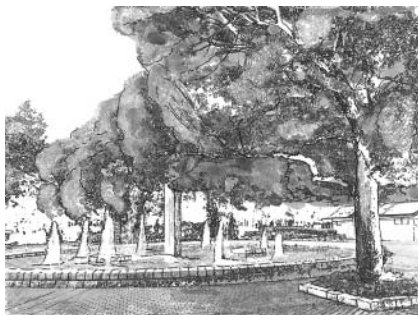


主張

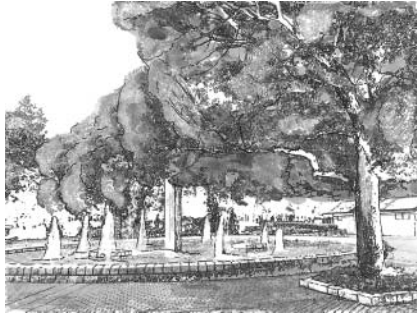
学校経営―学校文化の継承と創造―

近藤 結香



この四月から中学校学習指導要領が全面実施となった。これからの予測不可能な時代を生きる子供たちが未知の状況にも対応できる資質・能力の育成を目指し、GIGAスクール構想の展開とともに新たな授業づくりが進んでいる。しかし、昨年度からのコロナ禍に伴う「学校における新しい生活様式」での教育活動の実施は、新しく直面した状況の中で、学校文化を継承させていくためにどう判断するかが私たち自身に求められてきた。

私にとって現任校での勤務は、三度目である。一度目は二〇代半ばに教諭として、二度目は一〇年程前に主幹教諭として、そして昨年度、校長として赴任した。三度目に赴任をして「不易と流行」という視点で見ると、「流行」の点では学校行事が精選され、男子の頭髮の規則や女子の制服が変わった。また、生徒の質も大きく変わり、特別支援教育の視点に立った生徒指導が求められる。しかし昨年度、コロナ禍の中でも、本校の伝統が脈々と受け継がれているという「不易」の場面を感じずにはいられなかったときが多々あった。本校では伝統的に生徒の活動が活発で、生徒たちは主体的に学校行事に取り組んできた。例えば体育祭、合唱コンクールや校歌斉唱の歌声。三年生の後ろ姿を下級生が追う本校の伝統は、私が二〇代半ばの教諭の頃と変わっていなかった。昨年度の三年生はコロナ禍の



ため学校行事が制約されて活躍の場が十分なかったが、体育祭では縦割りブロックの活動を見事に成功させた。合唱コンクールではどのクラスも心を揺さぶる歌声を披露してくれ、伝統の混声四部合唱を聴けるといふ醍醐味を私に味わわせてくれた。それは、生徒会活動においても然りである。二度目の勤務のときに生徒会が校内にボランティア団体を立ち上げ、市内のボランティア活動の推進に取り組む契機をつくっており、今回も昨年の学校再開時から生徒会役員が中心となり、新型コロナウイルス感染者や医療従事者らへの差別や偏見をなくそうと県内で始まった「シトラスリボン運動」を地域に発信することになった。生徒たちはアイデアを出し合い、水引でシトラスリボンのストラップを作成しメッセージを添えて、来校される方々に配付した。今年度も学校行事の実施の検討を行うとき、学校文化の継承は大きな課題であるが、生徒たちの柔軟で創造的な発想や取組が私たちに大きな力を与えてくれる。伝統を継承・発展させていくことの大切さ、そして生徒たちが新しく生み出す活動の素晴らしさについて、校長として本校勤務三度目の今、教職員に語れると自負している。

本校は県都松山市の近郊田園都市として発展を続ける東温市の中心にあり、校区に四つの小学校を抱える中学校である。そして、本校でも今年度からコミュニティ・スクールが始まった。魅力ある学校とはどんな学校か、学校の存在価値を再確認しなければならぬ。今こそ、地域と協働しながら、人を育てるといふ視点での学校経営が必要である。これまで築き上げられた教育や校風を継承しながら、校長としての明確なビジョンを教職員・家庭・地域に示し、「生徒を笑顔にする温かい学校」を目指したい。

(全日中副会長・愛媛県東温市立重信中学校長)